

海外銅は、ドル高や需要懸念もあり軟調推移 アルミ相場は、10月下旬以来の2,000ドル割れに

3日入電のLME銅相場は中国PMIの低下や原油相場の低迷が改めて意識されたことから前日比30ドル安の6,456ドルの反落。

NY銅相場はドル高や銅需要への懸念もあり前日比1.70セント安の291.35セントと反落。

NYカーブは6,417.00~6,418.00ドルで、LME先物比は26.5ドル高となった。

錫は押し目買いの流れ続き、続伸

LME錫相場は100ドル高の2万340ドルと続伸。前日からの押し目買いの流れを受けた。

鉛は在庫増を嫌気し反落

LME鉛相場は21.5ドル安の2,017.5ドルと反落。LME在庫の急増を受け終始軟調。

亜鉛は僚品安の影響もあり反落

LME亜鉛相場は22ドル安の2,205ドルと反落。僚品安の下落を受け、後場軟調に。

アルミは2,000ドル割れで続落

LMEアルミ相場は41ドル安の1,997ドルと続落。10月下旬以来の2,000ドル割れに。LMEアルミ合金は17ドル安の1,983ドル、北

米特殊アルミ合金はの12ドル安の2,038ドル。

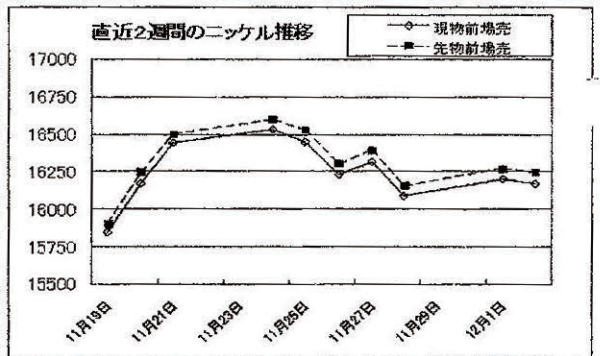
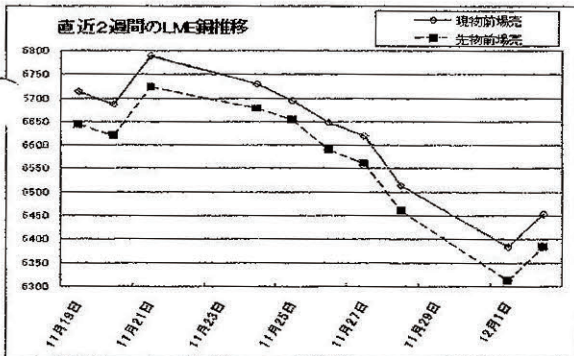
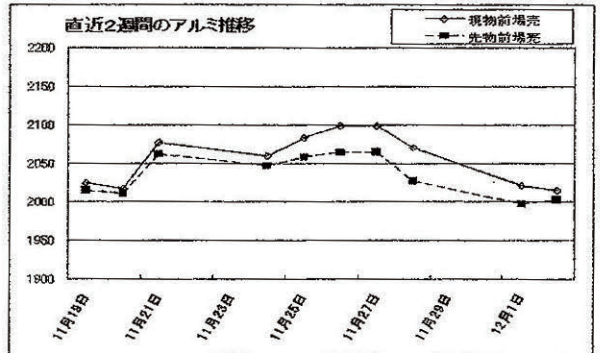
ニッケルは在庫増を嫌気し続落

LMEニッケル相場は10ドル安の1万6,165ドルと続落。在庫の増加を嫌気し軟調推移。

KLTM錫は32.2セント続伸

採算値は1万9,000円高

KLTM錫は32.2セント高の69.658Mドルと続伸。USDドルは前日比変わらずの2万250ドル、出来高は46トン。Mドル/USDレート=3.4399とTTSレート120.30円で換算した採算値は1万9,000円高の244万1,000円、諸掛込みの採算値も1万9,000円高の260万1,000円。



橋本健一郎氏のアルミ11月市場レポート及び12月見通し

■概況：前半はECBのドラギ総裁が政策金利を据え置いた後、必要とあれば追加の緩和策を行うことを全会一致で請け負っていると発言したことなどのプラス材料もあったが、10月の中国鉱工業生産は前年比7.7%増加と予想の8%増を下回り、10月の中国小売売上高は前年比11.5%増加で予想の11.6%増を下回るなどの中国経済後退懸念の台頭から直下がり、11月15日時点2029ドル(現

物後場買い)と月初価格から29ドル下げで前半締めとなった。

後半は中国主要70都市の新築住宅価格は前年比2.6%下落、1-10月の中国への海外直接投資は前年同期比1.2%減の959億ドルだったこと、第3四半期のイタリアGDP速報値は前期比0.1%減と同国のリセッション入りが確認されたことなどのマイナス材料もあったが11月の独ZEW景気期待



指数は11.5と予想の0.5を上回ったこと、3Qの米GDP改定値は前期比3.9%増に上方修正され予想の3.3%増を上回ったことを好感し上昇、12月1日現在、LME(現物後場)2051.5ドルと後半スタート価格から10.5ドル上げてのスタートとなった。

■**経済指標**:月間のドル/円レート(TTS)は113.26円→119.65円。日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比6.3%減の81万6936台。日本自動車販売協会連合会による自動車販売台数(軽除く)は同13.5%減の23万9207台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は同12.3%減の7万9171戸であった。

貿易指標を見ると、財務省貿易統計による輸出はアルミ新地金が前年比130%増の467トン、2次合金が同59%増の1749トン、スクラップが同1.2%増の1万3155トン。輸入は新地金が同13%増の13万6392トン、二次合金が同5.2%減の10万1434トン、スクラップが同96.3%増の1228トン、合金スクラップは同57.9%増の7908トンとなった。

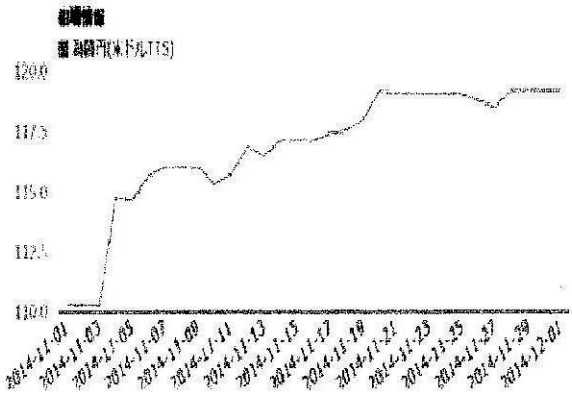
国内指標を見ると、日本アルミニウム協会発表の圧延品生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は同2.8%増の18万2018トン。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は同2.3%減の7万3264トン。

■**指標概況**:自動車生産は、10月の四輪車生産台数は81万6936台で前年同月の87万1570台に比べ5万4634台・6.3%減と4ヵ月連続で前年同月を下回った。10月の車種別生産台数と前年同月比は次の通り▽乗用車は68万3978台で6万930台・8.2%減と4ヵ月連続減、このうち普通車は39万7,555台で3万3917台・7.9%減、小型四輪車は14万404台で2万8800台・17.0%減、軽四輪車は14万6019台で1787台・1.2%増。トラックは11万9728台で3,985台・3.4%増と2ヵ月連続増、このうち普通車は5万5882台で6206台・12.5%増、小型四輪車は2万7765台で3101台・12.6%増、軽四輪車は3万6081台で5322台・12.9%減。バスは1万3230台で2311台・21.2%増と2ヵ月連続増、このうち大型は1011台で107台・11.8%増、小型は1万2219台で2204台・22.0%増。10月の国内需要は39万6508

台で前年同月比6.0%減(うち乗用車は32万8,331台で同7.4%減、トラックは6万7233台で同1.3%増、バスは944台で同15.4%増)。輸出は同1.6%減(実績)。11月の国内自動車販売台数(軽は除く)は23万9207台で前年比13.5%減と4ヵ月連続減、この内、乗用車15.9%減、貨物4.1%増、バス2.7%増であった。

10月の住宅着工戸数は7万9171戸で消費税率引き上げ前の駆け込み需要の影響が大きかった前年同月比では12.3%減。一方、季節調整済年率換算値では90.4万戸(前月比2.7%増)で3ヵ月連続増、前年同月比では持家が9ヵ月連続減(前年同月比28.6%減、季節調整値の前月比1.7%減)、貸家は4ヵ月連続減(同4.1%減、同4.4%増)、分譲住宅は9ヵ月ぶり増(同1.6%増、同4.9%増)、分譲マンションは9ヵ月ぶり増(同23.3%増)分譲一戸建住宅は6ヵ月連続減(同15.3%減)であった。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比2.3%減の7万3264トン、出荷は1.3%減の7万3916トンと9ヵ月連続減。出荷先では鋳物が4.1%減、ダイカストが0.3%減、板が2.6%増、押出が9%減、鉄鋼が10.7%増、合金地金メーカーが16%減。アルミ圧延・押出品生産数は2.8%増の18万2018トンと14ヵ月連続増。板類に関して、缶材は3万5220トン(2.9%増)、ボトル缶(主にコーヒー缶)が好調であったことに加え一部コーヒー缶のアルミ化による需要増。自動車は1万2996トン(1.2%減)、乗用車販売台数減少による需要減(10月の新車乗用車販売台数207千台、前年同月比11.3%減)。輸出は2万1475トン(44.2%増)、海外関連工場への素条輸出の増加等により7ヶ月連続増(4月23%増、5月20%増、6月35%増、7月34%増、8月15%増、9月30%増、10月44%増)。押出類に関して、建設は4万



月平均値(換算円(米ドル115))

	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
2014	92.36	91.33	91.55	94.45	92.99	93.01	89.71	86.51	85.26	87.96	84.47
2015	81.66	83.49	82.62	84.37	81.21	81.57	80.52	78.26	77.91	77.71	78.37
2016	79.10	79.35	83.44	82.55	83.80	80.75	83.07	84.66	79.17	80.82	81.82
2014	96.02	94.15	91.75	92.58	101.74	98.54	100.74	95.81	100.21	93.81	100.90
2016	103.16	104.25	103.29	104.57	103.82	103.03	102.69	101.96	102.77	102.82	110.11

	8月	9月	10月
生産台数	63万4747台	85万1051台	81万6936台
前年比	-6.7%	-2.6%	-6.3%
	9月	10月	11月
販売台数	31万3326	24万5111台	23万9207台
前年比	-2.8%	-8.3%	-13.3%
	8月	9月	10月
新設住宅着工	7万9711戸	7万5882戸	7万9171戸
前年比	-12.5%	-14.3%	-12.3%

5733トン(6.2%減)、新設住宅着工戸数減少が影響(9月着工戸数7万5882戸、前年同月比14.3%減)。自動車は1万1659トン(4.6%減)、板類と同様の動きであった。

輸出は新地金が前年比130%増の467トン、2次合金が同59%増の1749トン、スクラップが同1.2%増の1万3155トン。輸入は新地金が前年比13%減の13万6392トン、2次合金は5.2%減の10万1434トン、スクラップは96.3%増の1228トン、合金スクラップは57.9%増の7908トンであった。

■見通し:自動車は生産が前月に続き減少の6.3%減、また11月の国内販売台数も前年比13.5%減と減少幅拡大、販売減少が続きメーカーもそれに伴い生産を調整。輸出は今月も1.6%減と悪化、下げ止まりがいつか今後の動向に注目。新設住宅着工数は同12.3%減、季節調整済年率換算値で90.4万戸(前月比2.7%増)、消費税前の駆け込み需要も終了し8ヵ月連続減、ただ季節調整済換算では3ヵ月連続増で今後の動向に期待。

二次合金は自動車生産減少で生産も小幅減少、出荷は相変わらず減少し今後も大幅な改善は期待できないが大幅な悪化もないと見解。アルミ圧延・押出品生産数は前月の続き自動車向けの板や押し出し全般はよくないものの、板がボトル缶コーヒー、糸が輸出で増加しており今後もこの傾向が続くと見解。輸出は世界的に需要の多い自動車用の2次合金が円安も伴って増加、輸入は新地金、2次合金は円安からの割高感から減少はするものの、スクラップは自動車生産台数の高止まりをうけての慢性的な原料不足から増加し円安は当分続くことと見て上記の傾向は続くことから、これを踏まえアルミスクラップ需給は引き続

きタイトと見解。

■価格・為替予想:今月は原油価格やドル及び日本の衆院選後の政策に左右される。

WTI原油は27日のOPECで減産がなかったことから65ドル割れまで下落。採算ラインとされる70ドルをあっさり割り込んだ。ただ今回のOPECでもわかったようにアメリカのシェールガス採掘に伴う石油からの脱却への警戒感からOPEC諸国は価格よりも石油のシェア拡大に重きを置いており価格対策に走る可能性は低く、また米国にとっても原油安は年末のクリスマス商戦にプラス材料であることから放置気味で一旦は節目となる60ドルを割り込むのではないかと。

衆院選に関しては自民圧勝は間違いなく、また消費税の先延ばしも織り込み済みであり選挙後の景気対策に期待している。

それらを踏まえた12月のアルミ価格はWTI原油の急落への警戒感からOPECが何らかの策に言及し65-70ドル近辺で推移、それによるドル高・ユーロ安に歯止めがかかった場合に11月高値の2100ドルを予測、いずれかの場合は2000ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合にもう一段安値の1900ドル。

為替は先月の日銀の追加的金融緩和策の流れやWTI原油暴落に伴うドル高から120円近辺まで下落。今後もOPECの方針を受けてWTI原油が60ドルに向かって下落するようであればドル高から下値は125円台、上値はOPECが価格維持に方針転換した場合節目の115円と予測(TTM)。

メーカースクラップ購入価格は0~+5円と予測。

輸出	8月	9月	10月
新地金	168 t	55 t	467 t
前年比	+18%	-79.2%	+190%
次合金	1154 t	1384 t	1749 t
前年比	-26.2%	+37.8%	+59%
スクラップ	1万2644 t	1万2863 t	1万3155 t
前年比	+9.6%	-3.3%	+1.2%

輸入	8月	9月	7月
新地金	15万6563 t	12万9505 t	13万6392 t
前年比	+5.6%	+6%	-13%
二次合金	9万1806 t	9万6448 t	10万1434 t
前年比	+4.3%	+13.8%	-5.2%
スクラップ	1103 t	1049 t	1228 t
前年比	+80%	+41.6%	+96.3%
合金スクラップ	5713 t	6781 t	7908 t
前年比	+33%	+79.7%	+57.9%

